

令和 5 年度 旭中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

《基本目標》

人間尊重の精神を基盤に，豊かな心と個性をもち，自主性・創造性を発揮して，たくましく生きる力を培い，広く世界を見つめながら，進んで社会の発展に貢献できる人間を育成する。

《目指す生徒像》

- ・健康でやる気のある生徒（健康な体と気力）
- ・自ら学び創造力のある生徒（自主的な学習）
- ・心豊かで思いやりのある生徒（豊かな心）

《生徒の指標》

「世界の旭中学校 私がそれを代表する」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校経営のテーマ「誰もが安心して学び，活力にあふれる学校」

旭中学校の歴史と伝統に誇りをもち，学校と家庭・地域が支え合い，校風の継承と新しい時代にあった本校らしい教育の実践を通して，志と自信をもって生きることができ，地域を愛する生徒を育成する。

- 1 心身ともに健康で学ぶ意欲のある人間を育成するため，「知・徳・体」の調和がとれた教育課程を編成するとともに，秩序があり安心・安全な教育活動の実施に努める。
- 2 教職員の情熱と自覚，職務への責任感，協調性を高めることにより信頼される学校づくりの推進に努めるとともに，職務環境の適正化を進め，勤務意欲の向上を図る。
- 3 学校と家庭・地域との連携・協力を深め，積極的な情報発信と相互交流を大切に，学校マネジメントシステムに係る P D C A サイクルを生かして，地域とともにある学校づくりを展開する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

本校のスローガン「心に太陽をもて！」

1 確かな学力を身に付けさせるための学習指導の充実

- (1) 学力の基盤となる基本的な学習態度と学習規律を身に付けさせる指導を徹底する。
- (2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を両立する指導を展開する。
- (3) 主体的・対話的で深い学びや学習の達成感，課題解決を重視した授業展開の工夫・改善を図る。
- (4) ○総合的な学習の時間やキャリア教育を通して，自己の生き方を見つめる学習活動を充実する。
- (5) ○家庭における学習習慣の確立と適切な学習支援に努め，学習内容の定着を確実にする。

2 豊かな人間性と社会性を育てる教育の推進

- (1) ○教職員と生徒の好ましい信頼関係を構築し，生徒のよさを認め励ます指導と共感的な人間関係を通して，一人一人の思いやりや協調性など豊かな人間性を育成する。
- (2) 自己存在感・有用感がもてる学年・学級経営を実践し，集団生活の向上に寄与する態度を育てる。
- (3) 道徳や特別活動，部活動等の充実を図り，自律的かつ自主的・自治的に学校生活に取り組む態度を育成する。
- (4) ○正しい判断力と協調性を育てる指導に努め，基本的生活習慣の確立や規範意識の向上，対人関係能力の育成を図る。
- (5) ○学校と家庭・地域との適切な連携・協力のもと，豊かな心や感性を培う体験的な活動を展開する。

3 健やかな心身を育む教育の充実

- (1) 健康的な生活習慣を確立し，自ら進んで健康の増進に取り組む態度を育成する。
- (2) ○心身ともにたくましく，気力があり，何事にも粘り強く取り組む態度を育成する。
- (3) 栄養バランスのよい食生活により活力ある生活を送るため，家庭との連携を図った食育を推進する。

4 新たな教育課題等への対応と働き方改革の推進

- (1) ○特別支援教育への理解と共通実践を推進し，インクルーシブ教育への適切な対応を行う。
- (2) 不登校の未然防止と個々の状況を踏まえた対応の充実を図るため，組織的な指導支援と家庭及び関係機関等との連携・協力を推進する。
- (3) ○小中学校教職員の相互理解と連携・協力を深め，小中一貫教育・地域学校園の取組の充実を図り，旭地域学校園教育ビジョン「地域に愛される旭っ子の育成」の具現化を目指す。
- (4) 校内美化・緑化やよりよい掲示環境，ICT機器の活用，学校図書館の充実などを通して，心豊かで主体的な態度を育む教育環境の充実に努める。

- (5) 学習指導要領改訂やGIGAスクール構想の趣旨を踏まえ、各教科等の授業研究を深め、指導力の向上に努める。
- (6) 会議の精選、効率化等を通して校内業務の適正化を図るとともに、時間を意識した働き方を推進する。

【旭地域学校園教育ビジョン】

「地域に愛される旭っ子の育成」 ～地域との豊かなかかわりを通して～

地域社会の一員としての役割や責任を自覚し、家族や友人、地域の人々への感謝の気持ちを持ち、思いやりをもって接するとともに、元気にあいさつし、ルールやマナーを守るなどの社会性と基礎学力を身に付け、進んで身の回りの人々や地域のために奉仕的に行動できるこどもの育成を図る。

4 教育課程編成の方針

- ・「知・徳・体」の調和がとれた教育課程の編成
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業の実施
- ・育成すべき三つの資質能力（①実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能 ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等 ③学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力等）を明確にした教育活動の展開
- ・各種教育と各教科等の内容を相互に関連付けた計画作成による教科横断的な教育活動の展開

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
○地域との連携推進による学校教育の充実と働き方改革の推進
- (2) 学習指導
生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現
－基礎・基本の定着と学習習慣の確立－
- (3) 児童生徒指導
生徒一人一人に寄り添う指導を通じた基本的生活習慣の定着と人として大切な心の育成
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
よりよい生活習慣の確立と主体的に運動に取り組む態度の育成による健康・体力の向上

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 85%	① 授業においてタブレット型パソコンを活用した情報の収集や他者との情報交換をとおして自分の考えを深め、自らの課題を設定する力を育む。 ② 設定した学習課題の解決に向けて、学びを深める態度を育成する。	B	【達成状況】 ・生徒肯定的回答 90.7% ・数値指標より5.7ポイント、市の平均よりも0.8ポイント高い結果である。 ・自ら設定した課題解決に向けたタブレットの活用や他者との情報交換を行う生徒が増えている。 【次年度の方針】 ・課題を設定する方法や工夫について深化させ、主体的な課題設定能力を高める。

1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 85% 教職員肯定的回答 85%	① 授業や学校行事を通して多様な価値観を学び、学校、学級の一員としての自覚を高め、自分の役割を果たす実践力を高める。 ② 道徳の授業を通して、いじめ問題について考え、いじめをなくす取り組みを心がけている。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 94.5% ・教職員肯定的回答 100.0% ・生徒の数値指標より9.5ポイント、市の平均よりも2ポイント高い結果である。また教職員の数値指標よりも15ポイント、市の平均よりも7.3ポイント高い結果であった。 ・学校行事に積極的に取り組む生徒が多く、学校や学級への帰属感が高い生徒が多い。 【次年度の方針】 ・学校行事等を通してリーダーの育成を図るとともに、道徳において他者への共感的理解を深める授業を意図的に行う。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 85% 教職員肯定的回答 95% 保護者肯定的回答 85%	① 定期テスト毎に学習計画と反省を書かせ、自分の目標と到達度を視覚化することを通して、粘り強く取り組む態度を育てる。 ② 生徒が前向きな目標を立てられるように、適切な進路指導や丁寧な教育相談を行うとともに、生徒の努力を認め、励ましていく。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 84.1% ・教職員肯定的回答 94.7% ・保護者肯定的回答 82.9% ・学習についての取組や教育相談を適切に行うことができた。数値目標達成はしなかったが、教職員、保護者の肯定的回答率が市平均、昨年度よりも向上している。 【次年度の方針】 ・生徒の実態に応じて、粘り強く取り組める支援を計画し実施していく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%	① 定期健康診断を実施し、結果を通知することで、自身の健康に関心を持たせる。 ② 避難訓練を実施し、自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 92.9% ・定期健康診断、避難訓練を行い、健康で安全な生活について意識させることができた。 【次年度の方針】 ・生徒の実態に応じて計画を立て健康診断及び避難訓練を実施していく。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90% 教職員肯定的回答 90%	① キャリア教育アンケートやキャリア・パスポートを活用して自己の基礎的・汎用的能力のうち、伸ばしたい力やそのための課題を明確にして、自身の成長を確認できるようにする。 ② 道徳、学級活動、総合的な学習の時間の中で、自己や自分の将来について深く考えることを通して、夢や目標を見つけ、その実現に向けて努力する力を身に付けさせる。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 88.8% ・教職員肯定的回答 92.1% ・キャリア教育を実施し生徒自身の課題や、成長を意識させることができた。昨年度より生徒の肯定回答率は上昇したが、目標には届かなかった。 【次年度の方針】 1学年の「職業人に学ぶ」の行事の再開や講座の企画を推進していき、生徒が自分の将来について深く考えられるように実施していく。

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%	① タブレットを活用し、伝えたい事柄について情報を収集したり、表現を調べたりし、それらを他者とのやり取りや発表に生かす態度を養う。 ② 関心のある事柄や日常的・社会的な話題について、やり取りさせたり、発表させたり、書かせたりする。	【達成状況】 ・生徒肯定的回答 77.7% ・数値指標より2.3ポイント低いが、市の平均より4.2ポイント高い結果であった。 ・英語の授業の中では、活発に英語でコミュニケーションをとっている。 【次年度の方針】 ・タブレットの活用の工夫や授業等で、日常的に英語でのコミュニケーションを図る場を設定する。
	A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 85%	① 地域ボランティアへの参加や総合的な学習の時間(宇都宮学)の活動等から宇都宮の良さを多く体験できるように工夫する。 ② 地域で体験したことや地域について学習したことを発信できるように工夫する。	【達成状況】 ・生徒肯定的回答 83.1% ・地域での社会体験学習や宇都宮学で地域を調査する学習が十分にできた。また、その成果を他学年に発表する場を設けることができた。 【次年度の方針】 ・地域ボランティアへの参加や宇都宮学の活動等から宇都宮の良さを多く体験できる工夫を継続し、体験したことを発信する場を作っていく。
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90%	① 生徒用タブレット型ノートPC等を積極的に用いて調べ学習を行い、課題をまとめ、発表することで理解を深める。 ② 年鑑や統計・専門など、様々な図書を利用した調べ方を理解し、目的に応じた適切な参考図書を選び、有効に活用させる。	【達成状況】 ・生徒肯定的回答 83.4% ・数値指標より6.6ポイント低いが、市の平均より8ポイント高い結果である。 ・調べ学習やその発表にデジタル機器を活用する生徒が多い。 【次年度の方針】 ・タブレットによる検索と紙等の資料のそれぞれの特性を指導するとともに活用を工夫させる。資料センターとしての図書室の活用を図る。
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80%	① 各教科の学習や総合的な学習の時間の中で、「持続可能な社会」について学ぶ機会を活用し、自己を取り巻く環境について考えることで、「持続可能な社会」に対する理解を深める。 ② 地域のボランティア活動の機会を増やししながら、校内でもごみの分別等を推進し、環境を大切にする心を養う。	【達成状況】 ・生徒肯定的回答 83.4% ・ボランティア活動の再開、授業での保育園訪問実施など「持続可能な社会」について生徒が意識する機会がとて増えた。 【次年度の方針】 ・ボランティア活動を一層充実させ、総合的な学習の時間の授業等で更に「持続可能な社会」について考える機会を増やしていく。
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 教育相談部会、特別支援部会、特別支援教育校内支援委員会において情報交換をしっかりと行くと共に、報・連・相を確実にしながら素早く対応する。	【達成状況】 ・教職員肯定的回答 100.0% ・情報交換を定期的に行い、連携を図りながら適切に支援できた。 【次年度の方針】 ・部会以外でも情報交換をこまめにし、継続して支援を行う。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 95% 教職員肯定的回答 100% 保護者肯定的回答 90%	① 道徳を軸にし、心の教育を重視し、いじめの未然防止の取り組みの充実を図るとともに、HP や各種便り、学級懇談を通して、取り組みを保護者や地域社会に積極的に発信していく。 ② 教育相談の内容や QJ の結果などを十分に活用し、いじめの早期発見・早期対応、未然防止を行うとともに、保護者や生徒との信頼関係を築いていけるよう、適切な対応を心掛ける。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 95.9% ・教職員肯定的回答 100.0% ・保護者肯定的回答 75.7% ・生徒、教職員の肯定的回答が目標を上回り、適切に取組内容が反映されている。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答の値が目標を下回ったので、学年懇談や学級懇談会で今年度の学校での取り組み等を詳細に発信していく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90% 保護者肯定的回答 80%	① 教育相談や三者面談等を有効に活用しながら、家庭との連携を密にとり、問題があれば早期対応、早期解決を目指す。 ② 心配な生徒に教職員がチームで対応することで、学校とのつながりを維持し、不登校を生まない環境作りを推進する。	B 【達成状況】 ・教職員肯定的回答 94.7% ・保護者肯定的回答 88.1% ・情報交換をしながら、チームで対応することができた。また、レインボー教室の環境が整い、1 日中開設できた。 【次年度の方針】 ・情報の共有を図り、学級経営に活かしていく。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90% 教職員肯定的回答 95% 保護者肯定的回答 95%	① 様々な立場の教職員が連携をとりながら、生徒ひとりひとりの実態に即した指導・支援計画を立て実践する。 ② 学校行事や学級活動、生徒会活動において、生徒が主体的に活動に取り組むことができる機会を充実させ、認め励まし、生徒の自己有用感を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 92.0% ・教職員肯定的回答 94.7% ・保護者肯定的回答 87.1% ・取組を実施することができた。生徒の肯定的回答は目標を上回ったが市平均よりは下回った。 【次年度の方針】 ・数値目標の再設定と生徒が大切にされ、活気がある雰囲気の向上を目指した取組を再考していく必要がある。
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 85%	① 学習課題の提示、習得・活用・探求の時間を確保し、生徒による振り返りと教師によるまとめを明確にした授業を展開する。 ② 知識・技能を活用して考えさせたり、自分の考えを表現させたりして、思考力・判断力・表現力等を育成する。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 91.6% ・数値指標より 6.6 ポイント高いが、市の平均より 1.1 ポイント低い。昨年の市の平均と比較すると 1 ポイント高くなった。 ・生徒は、授業における学習課題を理解し、振り返りを真剣に行う姿が見られた。 【次年度の方針】 ・何を学び何に活かせるのかという観点を重視して振り返りを行い、自分のことばで表現する取り組みを行う。さらにわかる授業展開の工夫や個に応じたワークシートの工夫について研鑽を深める。
4- (1) 教職員の資質・能力の向上			

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 学校経営のテーマや、スローガンを学年フロアへ掲示したり、印刷物の中に記載したりすることで、全職員がより意識を高めて、業務を進められるようにする。 ② 行事の計画を早くから検討し、共通理解を図り、全職員で同じ方向性で進められるようにする。	B 【達成状況】 ・教職員肯定的回答 86.8% ・大部分の職員がスローガンを意識して業務に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・スローガンを日常的に目にする場所に掲示するなど、より全職員がスローガンを意識しながら教育活動を実践していけるようにする。 ・行事の計画等を早くから検討し、全職員で同じ方向性で進められるようにする。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%	① チーム学校として、SC、SSW、かがやきルーム指導員等と連携、協力して役割分担を図り、効果的な手立てを講じる。 ② リフレッシュデーを活用し、勤務時間内に業務を終わらせるよう効率的に行う意識を高める。 ③ タブレットやパソコンを利用した情報共有や生徒への問題提示等、紙印刷の手間を省くことで教員の業務縮減を行う。	B 【達成状況】 ・教職員肯定的回答 71.1% ・通知表の形式変更やさくら連絡網の活用拡大などにより、業務の効率化が図られた。 【次年度の方針】 ・リフレッシュデーを活用し、勤務時間内に業務を効率的に行うひとりひとりの意識を高める。 ・本年度同様、更なる業務の精選で効率化を進める。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 80% 教職員肯定的回答 80%	① 地域学校園あいさつ運動の充実や行事等における小中の連携、中学生によるボランティア活動の充実を図る。 ② 各学校の課題を明らかにし、オンライン会議を活用して地域学校園各部会の取組を充実させる(学力向上部会・特色ある学校づくり推進部会・連携部会・学校園事務室)	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 85.0% ・教職員肯定的回答 84.2% ・小中連携してのボランティア活動やあいさつ運動は充実した取組になった。 ・オンライン会議で効率的に連携を図ることができた。 【次年度の方針】 ・行事等における小中の連携したボランティア活動を充実させる。 ・オンライン会議や対面とオンラインを併用したハイブリット会議など、効率的に行うことを推進する。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者肯定的回答 80%	① 保護者会、三者懇談等を活用し、保護者との連携を図る。 ② 社会人の方からの講演やボランティア活動を通してより良い生徒の育成を行う。また、PTA との連携を深め、学校運営の充実を図る。 ③ 社会体験学習や宇都宮学の学習等において地域の方々や企業との連携を図る。	B 【達成状況】 ・保護者肯定的回答 86.3% ・保護者会やオープンスクールなどで、制限なしで授業を公開することができた。 ・とちぎ未来大使の講演会を保護者にも参加を呼びかけて実施することができた。 ・社会体験学習は、地域の企業等の協力により、充実した活動ができた。 【次年度の方針】 ・保護者や地域との連携を更に高めていくような取組を工夫して実施する。 ・社会体験学習や宇都宮学の学習等において地域の方々や企業との連携を充実させる。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90% 保護者肯定的回答 85% 地域住民肯定的回答 85%	① 毎月1回、校舎内、運動場等校地の安全点検を計画的、組織的に実施する。 ② 学校行事の前後や災害時発生時等、必要がある時は、臨時に安全点検を実施する。	B 【達成状況】 ・教職員肯定的回答 97.4% ・保護者肯定的回答 90.0% ・地域住民肯定的回答 93.3% ・安全点検を適切に行い、環境づくりに努めた。 【次年度の方針】 ・日常的に問題意識をもって安全に配慮する。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員肯定的回答 90%	① 生徒・教職員がいつでもデジタル機器を利用できるよう、貸出環境を整える。 ② 具体的な使用例を共有して、効果的な授業実践ができるようにする。	B 【達成状況】 ・教職員肯定的回答 97.4% ・数値指標より7.4ポイント高く、市の平均より4.5ポイント高い結果である。 ・常時、生徒・教職員がデジタル機器を利用できる環境が整っている。 【次年度の方針】 ・授業等での使用法・使用例を共有できるように、実践例を収集し研修を行う。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90% 教職員肯定的回答 90% 地域住民肯定的回答 95%	① あいさつ運動を継続し運動部とも連携して行う。あいさつの意義を生徒に伝えることを通して、校内で会う友人、先輩後輩、先生、来校者など、相手に応じたあいさつができるようにする。 ② 授業や給食または部活を通して、所作を含め指導し、あいさつの習慣化を図る。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 95.9% ・教職員肯定的回答 89.5% ・地域住民肯定的回答 93.3% ・学級ごとのあいさつ運動や、PTSC あいさつ運動など、学校全体であいさつを行う回数が増加したため、全体の肯定的な回答が増加した。 【次年度の方針】 ・回数は増加したため、質の向上が図れるような指導をしていく。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90% 教職員肯定的回答 90% 保護者肯定的回答 90%	① 教職員が生徒の模範となるようきまりやマナーを守ることを率先垂範することにより、教育活動全般においてきまりを守る姿勢を育てる。 ② 交通安全教室等の取組や、生徒同士で指摘し合えるよう指導していくことで、命の重さ、ルール・マナーを守ることの重要性を認識させたうえで行動する態度を育成する。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 95.7% ・教職員肯定的回答 97.4% ・保護者肯定的回答 94.2% ・教職員が率先垂範したことで、きまりを守る姿勢が昨年以上に見られた。 【次年度の方針】 ・日常的に規範意識を高められるような指導をしていく。
	B3 教職員は、生徒が自主的な学習を進めることができるように、学習の進め方を指導している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90% 教職員肯定的回答 95%	① 自主学習の仕方や定期テストに向けた具体的な対策を、各教科の授業や学年集会等で説明し、学習の手引きを活用して効果的な学習の仕方を指導する。 ② 火曜日と木曜日の朝の読書の10分間にタブレット型PCを活用した学習活動を取り入れ、家庭での活用を見据えて生徒が自主的に取り組めるよう、学習の進め方を指導する。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 94.5% ・教職員肯定的回答 94.7% ・数値指標生徒肯定的回答が4.5ポイント、教職員肯定的回答は0.3ポイント低い結果であった。 ・生徒は自主学習ノート、AIドリルに取り組んでいる。 【次年度の方針】 ・自主学習ノート、朝の学習時間の確保を継続し、体系的に課題を与えることを通して、自主的な学習の進め方を指導する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 4 教職員は、生徒同士が互いに認め合える環境作りをしている。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90% 保護者肯定的回答 85%	① 行事等の振り返りワークシートの中に他の生徒の取組を認める項目を設ける等の工夫をするとともに、各種便り、HP 等で学校の取組を保護者に積極的に発信していく。 ② 道徳の授業をはじめとする学習活動の中にグループ活動を取り入れるなど互いの意見を交わす場を設定し、GoogleJambored 等のアプリも活用することで他者の考えに触れさせ、その考えを共有し、尊重し合える場を設定する。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 93.2% ・保護者肯定的回答 81.5% ・各種便り、HP 等で学校の取組を保護者に発信は積極的にできたが、生徒同士の認め合いがわかる情報が少なかった。 【次年度の方針】 ・各種便り、HP 等で学校の取組を保護者に積極的に発信していくとともに、その内容を工夫していく。
	B 5 学校や地域は、生徒が自主的に地域の行事に参加し、活動することを支援している。 【数値指標】 生徒肯定的回答 90% 地域住民肯定的回答 90%	① 年間を通して地域の行事に自主的に参加する機会を設定し、地域と共に支援することで、地域貢献の意識を高める。 ② 地域行事への参加の様子を収めた写真などを、学校 HP に掲載したりすることで、生徒の達成感を高める。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 92.5% ・地域住民肯定的回答 93.3% ・昨年度よりも地域でのボランティア活動の機会が増えた。 【次年度の方針】 ・生徒の安全を考慮しながら、地域の行事やボランティア活動を精選して紹介し、参加を促していく。 ・活動の様子を積極的に発信していく。
	B 6 学校や地域は、定期的に登校指導や下校指導を行い、登下校時のマナー向上や生徒の自発的なあいさつの浸透を図り、「地域に愛される旭っ子」の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒肯定的回答 85% 教職員肯定的回答 90% 保護者肯定的回答 85% 地域住民肯定的回答 90%	① 保護者・教職員・生徒・地域が一体となって行う PTSC あいさつ運動を計画的に行い、教職員で連携を取りながら下校指導を行う。 ② 一斉下校の際には、交通担当教員を中心に、巡回下校指導に当たり、登下校時のマナー向上や生徒の自発的なあいさつの浸透を図る。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 94.1% ・教職員肯定的回答 94.7% ・保護者肯定的回答 86.0% ・地域住民肯定的回答 93.3% ・取組により、自発的なあいさつの浸透、交通マナーの意識向上をはかることができた。 【次年度の方針】 ・数値目標を全ての項目で達成できている。次年度も現在の方針を継続するが、交通マナーについてさらに意識を高める取組を実施していく必要がある。
	B 7 学校や家庭は、生徒が主体的によりよい生活習慣を確立し、心身ともにたくましく、規則正しい生活習慣を身につけられるよう支援している。 【数値目標】 生徒肯定的回答 85% 教職員肯定的回答 90% 保護者肯定的回答 85%	① 学校行事や専門委員会、各教科を通して、よりよい生活習慣を身につけさせるような活動を行う。 ② 保健だより、食育だより、生徒指導だより、図書館だより、各種だよりを活用し、家庭や生徒への情報発信を行うとともに啓発を図る。	B 【達成状況】 ・生徒肯定的回答 97.0% ・教職員肯定的回答 100.0% ・保護者肯定的回答 89.7% ・生活の振り返りを継続的に実施した。 【次年度の方針】 ・生活の振り返りについては、より効果的な取り組み方について検討する。 ・学校行事や専門委員会、各教科を通して、生活習慣を身につけさせる。その際に、各種たよりを活用する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度より評価項目が新しくなったため、すべての項目を昨年度と比較することは難しいが、肯定的回答の割合が 80% 以上の項目は全体の 90% となり、取組の成果が見られた場面が多かったと思われる。

○生徒の肯定的回答で 95% を超える高い割合が見られた項目は、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」(95.9%)、B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」(95.9%)、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」(95.7%)、B7「学校や家庭は、生徒が主体的に…中略…身に付けられるよう支援している」(97.0%) であった。教育活動全体を通して基本的な生活習慣の育成や互いに認め励まし合う雰囲気づくりに努めた成

果であると考えられる。

・評価項目 A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」については、数値指標を下回っているが、市平均を 8.0 ポイント上回っている。常時、生徒や教職員がデジタル機器を活用できる環境が整いつつあることや、様々な場面で積極的にデジタル機器の活用を図っている成果であると思われる。

○評価項目 A17「学校は、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」については、市平均より 3.7 ポイント高い。例年高い肯定的回答の割合を示している項目であるが、今年度も継続して高い値となっている。小中合同のあいさつ運動やボランティア活動に多くの生徒が積極的に参加していることが評価にあらわれたと思われる。

○昨年度と比較して教職員の肯定的回答で顕著な増加が見られたのは、B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」(13.8 ポイント増)、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」(10.9 ポイント増)であった。他にも肯定的回答が大きく向上している項目があり、教職員全体で共通理解をしながら指導をした成果であると考えられる。

・A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」については、教職員の肯定的回答が 94.7% で昨年度から 8.3 ポイント増と高い割合を示し、保護者の肯定的回答も 82.9% で昨年度比 1.4 ポイントと増加しているが、生徒の肯定的回答が 84.1% と昨年度から 2.0 ポイント減少し、意識の差が見られる。

・今年度の課題の一つであった業務の効率化については、肯定的回答が 71.1% であった。ICT を活用した情報共有が定着したことやさくら連絡網の活用拡大など、業務の効率化が図られてきた成果であると思われる。

・全体的に市平均と比較してみると、生徒、教職員の肯定的回答より、保護者の肯定的回答が低い傾向が見られる。様々な効果をあげている取組等を各種たよりやホームページを活用して積極的に発信していく必要がある。

7 学校関係者評価

・アンケートの結果から、学校全体の活動を生徒と先生方が同じ目線で実践していることが分かった。

・改善点はたくさんあるかもしれないが、全体的に見ると良い結果であると思う。

・保護者の肯定的回答が低い傾向にあることについては、アナウンスの方法を工夫して、現在よりも踏み込んで周知する必要があるのではないか。さくら連絡網やホームページ等を利用して、生徒の様子や活動の様子等を積極的に発信してほしい。

・あいさつ運動が活発に実施され、あいさつの定着が図れていることはとても良いことだと思う。見習っていきたい。

・コロナ禍で約 3 年間 PTA 活動等を自粛していたこともあり、学校に来る機会が減っていた。そのため、学校に来なくてもよい雰囲気があるように思う。保護者の方に学校で取り組んでいること等が伝わらない原因の一つかもしれない。表に表れないようなことでも学校側は多くのことに取り組んでいるので、協力して盛り上げていきたい。

・能登半島地震の募金活動を生徒会が主体的に実施していると伺った。こういった生徒の姿勢は、アンケートの「生徒は、思いやりの心をもっている」という項目で生徒の肯定的回答が高くなっているところにも表れていると感じた。

・ボランティア活動を積極的に推進していることはとてもよいことだと感じた。ボランティア精神が培われている旭中なので、避難所になったらどのように行動したらよいかなど生徒の案を聞いてみたいと思った。

・安全に関わる項目で生徒は高い値を示しており、交通安全指導や避難訓練等、しっかり取り組んでいることが分かった。防災意識を高めるための考えを、地域未来会議等で意見交換できたらよいと思った。

・様々な取組に対して肯定的回答が多く見られ、1 年間しっかりと取り組まれていたことが分かった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・コロナ禍での制限がなくなり、全校生徒が一堂に会して行う活動も増え、学校に以前のような活気が戻った一年であった。また、学校行事や授業参観、オープンスクール等を実施し、保護者や地域の方に生徒の活動の様子や学校の取組を見ていただくことができた。今後も、感染対策を継続しつつ積極的に教育活動を推進していきたい。

・生徒は、「心に太陽をもて」というスローガンを意識しながら学校行事や生徒会活動に意欲的に活動しており、多くの項目で高い肯定的回答が見られた。引き続き生徒の主体的な活動を推進し、生徒の活躍の場を創出できるよう努めていきたい。

○きまりやマナーを守ることにについては、教職員が率先垂範をし、学校全体で規範意識を高めるよう指導を継続したことから、生徒・教職員・保護者・地域と全ての対象において高い肯定的回答が得られたのではないかと分析している。引き続き、TPO に応じた対応ができるよう全職員で共通理解をし、同一歩調で指導を継続できるよう努めていきたい。

・本校の特色の一つであるボランティア活動の推進については、地域の協力のもと多くの活動が再開したため、生徒へ積極的に参加を促すことができた。ボランティアに興味・関心の高い生徒も多く、年間複数回参加をしている生徒もいることから、地域との連携を深め活動が継続できるよう進めていきたい。

・ICT の活用については、年毎に効果的な活動が実践されており活用の幅も広がっている。情報活用能力の向上を図りな

がら適切な活用方法について指導を継続していきたい。また、ICT 機器の活用と同時に図書の利用についても推進していきたいと考える。

- ・ 様々な活動に意欲的に活動する生徒が多く全体的に高い肯定的回答が見られる反面、保護者の肯定的回答が低い傾向が見られ、意識の差が感じられる。今後は、これまで以上に学校の方針や取組、生徒の活躍などを多くの地域の方や保護者に知ってもらえるよう、各種たよりやホームページを活用して情報発信に努めていきたい。

- ・ 課題の一つである学校の業務の効率化については、個人の取組を評価する質問に変更されたため昨年度との比較をすることは難しいが、ICT を活用した業務への移行が進み、さくら連絡網を活用したペーパーレス化を進めるなど、職員全体に業務改善の意識の高揚が見られる。しかし、市平均と比べると肯定的回答が低い傾向が見られるため、業務改善に向けたさらなる工夫・改善に取り組んでいきたい。

○「地域に愛される旭っ子」の育成に関する項目については、生徒・教職員共に高い値を示しており、特に生徒の肯定的回答は年々増加傾向にある。コロナによる制限がなくなったことから生徒会主催のあいさつ運動がさらに活発になったり、生徒会発案の安全マップを作成したりするなど地域に目を向けた活動の広がりも見られた。今後も、家庭と地域とのつながりを大切にするとともに、小学校との連携も深めていきたい。